

令和 4 年度事業報告 及び一般会計歳入歳出決算



茨城県支部

1. 令和4年度事業報告

(1) 災害救護事業 災害救護体制の強化

当支部では医師、看護師、主事等からなる医療救護班を9班を保有しており、同要員等を対象にコロナ感染対策を徹底し、救護訓練等を実施した。

また、新規事業として市民の防災意識高揚のため、茨城新聞社と連携し「BOUSAイキャンプ」を開催した。



第2ブロック支部総合訓練
避難所の巡回診療を行う救護班



BOUSAイキャンプ
救急法を体験した親子

(2) 救急法等講習の実施

コロナ禍によるニーズの変化に対応しながら、オンライン講習をはじめ各種講習を実施し、約9,400名に救命手当の技術などを普及した。

また、青少年赤十字100周年を記念し、児童・生徒や教職員に対し積極的に救急法を普及し「命と健康の尊さ」を考える機会を提供した。



親子で救急法オンライン講習に参加



青少年赤十字加盟校の生徒が応急救手当を学ぶ

	開催年度	開催数	受講者数
救急法等の開催実績	令和4年度	256 (42)	9,430 (4,400)
	令和3年度	155 (41)	6,207 (2,330)

※()の数はオンライン講習の実績数

(3) 地域包括ケア事業の実施

市民の「自助」や「互助」意識の醸成を図り、より良い地域づくりの一助となることを目的に、笠間市社会福祉協議会と連携して高齢者支援と子育て支援に関する活動による地域包括ケアのモデル事業を実施した。



高齢者に起こりやすい病気や
ケガの対応を普及



乳幼児の一次救命処置を普及

(4) 赤十字奉仕団の活動

- ・赤十字活動資金の募集をはじめ、義援金の呼び掛けやNHK海外たすけあい募金活動を実施した。
- ・地域の子供たちを対象とした車いす体験などの福祉イベントを実施した。
- ・高齢者、生活困窮者等の支援や児童育成の地域支援活動を実施した。
- ・クリスマス献血キャンペーンなど、年間通して献血普及活動を実施した。

【奉仕団数及び奉仕団員数】

地域赤十字奉仕団	42団	6,552人
特別赤十字奉仕団*	11団	803人

*アマチュア無線奉仕団、語学奉仕団、学生奉仕団 など



子供たちを対象とした車いす体験
(那珂市赤十字奉仕団)



クリスマス献血キャンペーンの様子
(茨城キリスト教大学学生赤十字奉仕団)

(5) 青少年赤十字の活動

青少年赤十字創設100周年記念事業の実施

青少年赤十字創設100周年にあたり、記念大会の開催のほか、作品コンクールや佐賀・福岡への視察研修などの記念事業を実施した。



記念大会 「100周年のちかい」の様子



作品コンクール展示会の様子

(5) 青少年赤十字の活動

青少年赤十字活動の充実と加盟促進

- ・活動活性化の一助となるよう、モデル校や新規加盟校に対して活動助成を実施した。（モデル校 10校、新規加盟校 6校）
- ・中・高校生メンバーに対し、防災やSDGs等に関するオンラインセミナーを実施した。（延13校202人参加）



坂東市立生子菅小学校（令和4年度モデル校）
地域の美化活動・環境保全活動へ参加した様子

【青少年赤十字の加盟状況】

幼稚園 保育所等	小学校	中学校	義務教育学校	高等学校	中等教育学校	特別支援学校	通信制	計
7園	158校	94校	3校	70校	4校	3校	2校	341校

(6) 赤十字活動の広報

多くの県民から共感を得られるよう日本赤十字社の使命や活動を分かりやすく伝えるなど、積極的な広報の展開に努めた。

- ・広報紙等の配布

赤十字の活動を支援する会員の皆さまに対して、広報紙「日赤茨城」
(夏号：584,100部、冬号：245,000部) や「赤十字NEWS」(毎月1,765部)

などを送付し、活動資金の使いみちなど事業報告を行い、赤十字活動への理解促進に努めました。

- ・メディアに対し、当支部の防災イベントの取り組みや、青少年赤十字創設100周年記念事業等について積極的に情報提供し、新聞やラジオなどに取り上げられた。

プレスリリース回数	メディアによる発信・報道				
	テレビ	新聞	ラジオ	タウン誌	計
3回	1回	13回	32回	23回	69回

(7) 活動資金の確保 ①取組と結果

取組

- ・地区分区との連携、既存会員の維持・確保、新規会員の獲得、青少年赤十字創設100周年記念特別寄付募集、遺贈寄付の受付推進を5つの柱として、多様な資金確保策を展開した。

結果

- ・**4億100万円**を確保。【目標額（3億7,500万円）**達成率107%**】

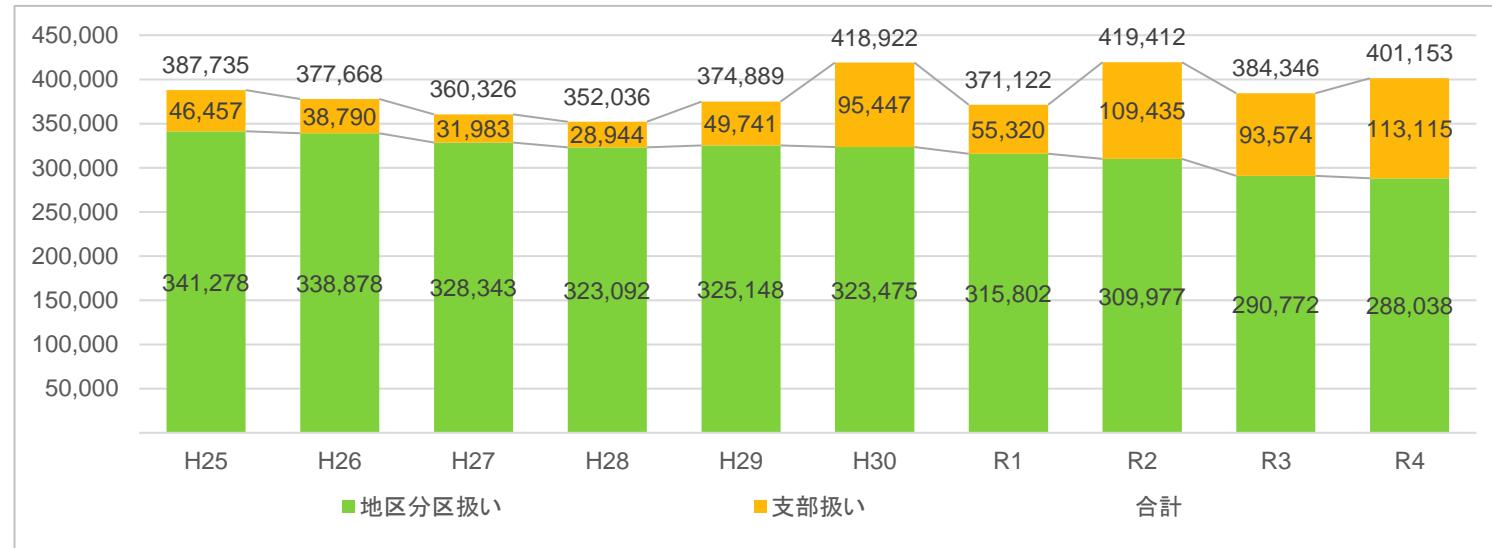
〈活動資金確保プロジェクト〉

柱	主な取り組み
地区分区との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会等を通じた各世帯への協力依頼 ・地元企業への個別訪問による協力依頼
既存会員の維持・確保	<ul style="list-style-type: none"> ・支援継続及び支援拡大を目的とした会員向け会報誌の配布 ・支部職員担当制による会員への定期挨拶や個別依頼等 ・クレジットカード決済や口座振替による活動資金協力の推進
新規会員の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・義援金、海外救援金寄付者及び優良企業等へのダイレクトメールによる依頼 ・個人の祝事記念や法人・団体の周年記念での協力 ・クレジットカードやスマートアプリなど非接触型による寄付協力方法の周知
青少年赤十字創設100周年記念特別寄付募集	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年赤十字（JRC）創設100周年を記念し、ダイレクトメールによる特別寄付を募集〈新規取組〉
遺贈等寄付の受付推進	<ul style="list-style-type: none"> ・士業（税理士会）会員を通じた遺贈・相続財産寄付の推進〈新規取組〉 ・広報媒体等による遺贈・相続財産寄付の推進

(7) 活動資金の確保 ②成果と現況及び課題

当支部の活動資金実績額の推移

(単位：千円)



成果

活動資金総額は、平成28年度に約3億5,200万円まで減少したが、平成29年度から「(※)活動資金確保プロジェクト」を開始したことにより回復基調にある。

(※)安定的な事業継続に向けた財源確保のため、支部事務局長をリーダーとし、多様な活動資金募集を展開

- ・活動資金の基盤となる地区分区扱いの「町内会(世帯)からの活動資金」は町内会の加入率の低下などにより、減少傾向に歯止めがかかるない。
- ・一方、企業などの社会貢献の一環としての日本赤十字社への大口寄付、個人の相続財産寄付など支部扱いは少しずつ増えており、目標額の確保にも寄与している状況。
- ・地区分区と連携した町内会経由の活動資金募集は重視しつつも、減少額を補完するため、法人など新たな協力者確保に向け、引き続き多様な募集方法の検討に努める。

現況 及び 課題

年度	活動資金総額 (単位：千円)	平成28年度を 100とした指標
平成28年度	352,036	—
平成29年度	374,889	106
平成30年度	418,922	119
令和元年度	371,122	105
令和2年度	419,412	119
令和3年度	384,346	109
令和4年度	401,153	114

2. 令和4年度一般会計歳入歳出決算

(単位：千円)

科目	R4決算	R3決算	増減
歳 入	537,486	521,948	15,538
歳 出	421,211	418,075	3,136
差 引 (翌年度繰越額)	116,275	103,873	12,402

(1) 岁入決算

(単位：千円)

科目	R4決算	R3決算	増減	主な収入	主な増減理由(100万円以上)
社資収入	410,940 ※	384,519	26,420	一般社資 (個人からの寄付) 法人社資 (法人および団体からの寄付)	・支部扱社資 113,115(19,541) ・地区分区扱社資288,038(△2,734) 計401,153 ※トルコ・シリア地震救援金含む (9,787)
委託金等収入	0	0	0	災害等補償収入	
雑収入等	22,673	31,142	△8,468	本社交付金 他会計からの資金繰入金 講習会等負担金	・特別退職金制度が令和3年度に廃止されたことにより積立金が取り崩され、当該年度のみ臨時的に計上されたことによるもの
前年度繰越金	103,873	106,287	△2,414	前年度繰越金	
合 計	537,486	521,948	15,538		

(2) 岐出決算

(単位:千円)

科 目	R 4 決算	R 3 決算	増減	主な使途	主な増減理由 (100万円以上)
災害救護事業費	33,694	33,318	376	災害対応訓練 災害対応における救援物資整備	
社会活動費	46,912	36,761	10,151	救急法などの講習、 奉仕団・青少年赤十字活動の普及	・感染症対策を徹底して講習を再開したことによる増 ・奉仕団視察研修事業による増 ・JRC100周年事業による増
国際活動費	10,792	1,173	9,619	海外支援・開発協力活動 バングラデシュ保健医療支援事業 インドネシアコミュニティ防災事業	・トルコ・シリア地震救援金を本社に送付したことによる増 (9,787)
指定事業地方振興費 (個人住民税)	18,529	10,845	7,684	地区分区への救護資機材整備 災害対応における救護資機材整備	
地区分区交付金	50,178	48,840	1,338	地区分区における赤十字活動費用に充てるため地区分区扱いの社資収入の一定割合を交付するもの	・コロナウイルス感染症の収束に伴う地区分区からの赤十字活動事業費交付金申請の増
社業振興費	41,223	40,740	483	活動資金募集、広報活動	
基盤整備交付金	8,560	8,844	△284	病院等赤十字施設の整備を目的とした寄付金を交付するもの	
積立金	71,594	99,878	△28,284	[災害積立] 災害発生時等,緊急経費 [施設積立] 建物等の減価償却分	[災害積立]特別退職金積立留保金制度廃止に伴う積立額の減 [施設積立]積立の減
総務管理費	67,552	67,794	△242	事務管理等	
資産取得 及び資産管理費	14,333	14,773	△440	支部庁舎の維持管理	
本社送納金	57,844	55,109	2,735	全国的な赤十字活動	・社資収入増に伴う増
合 計	421,211	418,075	3,136		

令和4年度事業報告 及び医療特別会計歳入歳出決算



100
Anniversary
h since 1923 ~ 2023

100年に感謝 ～これからも地域とともに～

水戸赤十字病院

1. 令和4年度事業報告

(1) 病院の特徴

①病床数 許可病床：442床 実働病床：338床

②診療科 25診療科

③特 徵

- ・基幹災害拠点病院
- ・第二次救急医療施設
- ・茨城県がん診療指定病院
- ・エイズ診療拠点病院
- ・基幹型臨床研修病院
- ・緩和ケア病棟
- ・人間ドック施設 等
- ・地域医療支援病院
- ・地域周産期母子医療センター
- ・地域リハビリテーション広域支援センター
- ・第二種感染症指定医療機関
- ・病院機能評価認定施設
- ・地域包括ケア病棟

④職員数：613人（常勤換算数）

医師：86人 看護師：299人 医療技術者：86人 その他：142人

(2) 重要施策

① 医師の確保

- ・医療提供体制の維持・充実を図るため、専門の人材紹介会社を活用したリクルート活動とともに、日赤本社と一緒に、大学への働きかけを強化するなど医師確保に全力を注いだ。
- ・令和4年度は医師4名（消化器外科、放射線科、健診科、リハビリテーション科）の採用が決定した。

② 新型コロナウイルス感染症対策

- ・最大85床の専用病床を確保し、新型コロナ患者を受け入れるとともに、一般市民向けワクチンの接種体制を維持した。

③ DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

- ・電子決裁システムやタブレット端末を整備し、ハンコレス化、ペーパーレス化を推進した。
- ・令和4年度は新たにシステム担当者を1名採用した。

④ 地域医療構想への対応

- ・「HCU（ハイケアユニット）」を新設し高度急性期医療の提供を開始するとともに、新病棟の建設に向けた基本構想の策定にも着手した。

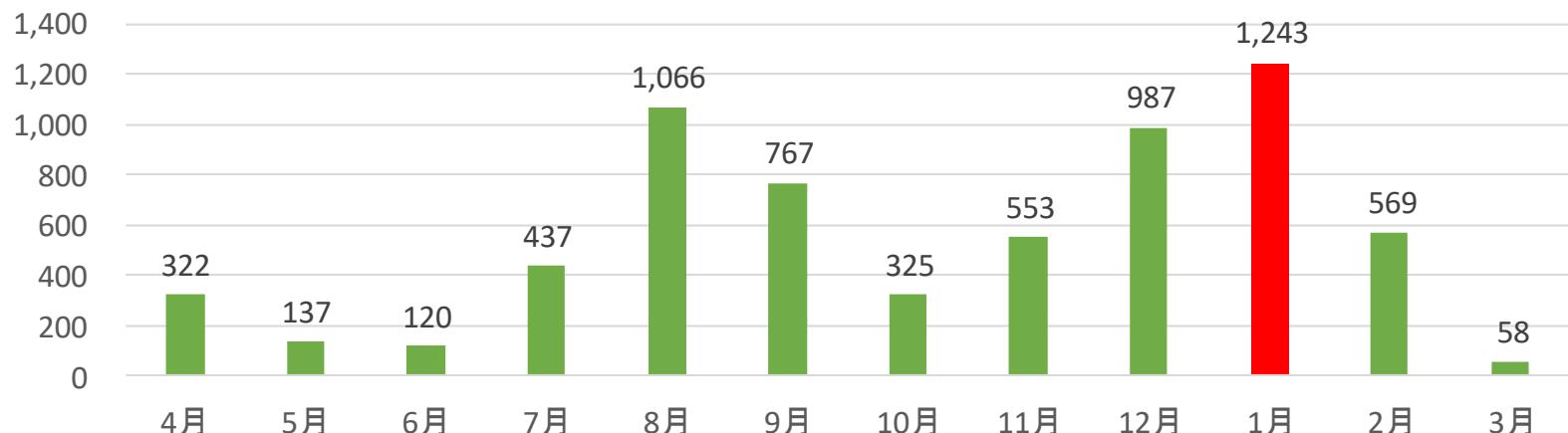
(3) 新型コロナウイルス感染症対応状況

・ 入院患者受入

新型コロナウイルス感染症患者対応のため、重点医療機関として専用病床を整備し、多くの陽性患者を受け入れた。

〔令和4年度 入院状況〕

(単位：人)



(4) 重要指標

① 1日平均患者数

外来患者

(単位：人)

4年度決算	746
4年度計画	760
3年度実績	760

入院患者

(単位：人)

4年度決算	204
4年度計画	230
3年度実績	202

② 1人1日当たり患者収益

外来患者

(単位：円)

4年度決算	19,845
4年度計画	20,200
3年度実績	19,422

入院患者

(単位：円)

4年度決算	65,883
4年度計画	62,900
3年度実績	61,949

2. 令和4年度歳入歳出決算の概要

・収益的収入

(単位：千円)

	4年度決算	3年度決算	備考（主な内容等）
入院診療収益	4,913,683	4,568,828	新型コロナ対応 [最大85床確保、延6,584人が入院]
室料差額収益	99,029	109,128	個室料収入
外来診療収益	3,600,251	3,574,083	新型コロナ対応
保健予防活動収益	174,485	183,733	人間ドック収入等（宿泊ドックは休止中）
その他医業収益	64,033	57,777	診断書料収入等
医業外収益等	1,856,649	2,912,092	補助金収入等 [病床確保料収入約15億円]
合　計	10,708,130	11,405,641	

2. 令和4年度歳入歳出決算の概要

・収益的支出

(単位：千円)

	4年度決算	3年度決算	備考（主な内容等）
材料費	2,741,707	2,602,124	医薬品、診療材料、給食材料費等
給与費	5,232,099	4,892,625	医師、看護師等人事費
委託費	522,935	494,369	清掃、警備、保守、医事業務等
設備関係費	862,422	845,275	器機賃借料、修繕費等 [減価償却費約5.8億円]
研究研修費	21,227	16,064	図書費、旅費交通費等
経費	428,956	370,124	水道光熱費、福利厚生費等
医業外費用等	225,988	228,121	看護師等委託養成費、診療費減免等
合　計	10,035,334	9,448,702	

3. 令和4年度歳入歳出決算の総括

・ 収入支出差引額

(単位：千円)

	4年度決算	3年度決算	備考（主な内容等）
収益的収入	10,708,130	11,405,641	病床確保料約15億円
収益的支出	10,035,334	9,448,702	材料費、設備関係費等の増加
収入支出差引額	672,796	1,956,939	3年連続黒字決算

- (1) 収入では、入院診療収益の伸びにより医業収益がコロナ禍前を回復したものの、新型コロナウイルス感染症関連の補助金が減少したことにより収入減となった。
- (2) 支出では、材料費、設備関係費等の増加により支出増となつた。
- (3) 支出を上回る収入により、収支差引額は、昨年に続き6億7,279万円の黒字決算となつた。

4.補助金一覧

(1) 運営費補助金

補助元	新型コロナ以外	新型コロナ関連	備考（コロナ関連）
国庫	7,474,000円	3,741,500円	小学校休業等対応助成金
都道府県	34,290,910円	1,544,269,570円	病床確保料 @74,000円/日
市町村	53,620,000円	—	
補助金合計	95,384,910円	1,548,011,070円	

(2) 施設設備補助金

補助元	新型コロナ以外	新型コロナ関連	備考（コロナ関連）
都道府県	—	54,478,820円	分娩監視装置等
補助金合計	—	54,478,820円	

令和 4 年度事業報告 及び医療特別会計歳入歳出決算



古河赤十字病院

1. 令和4年度事業報告

(1) 病院の特徴

①病床数 許可病床：200床 実働病床：200床

②診療科 26診療科

③特 徵

- 地域災害拠点病院
- 第二次救急医療施設
- 第二種感染症指定医療機関
- 病院機能評価認定施設
- 救急救命士実習病院
- 新型コロナウイルス感染症重点医療機関（特定機能病院等）
- 自治医科大学地域臨床教育センター
- 在宅医療参入促進連絡医療機関
- 地域医療支援病院
- 病院群輪番制病院
- 小児二次救急輪番病院
- 地域包括ケア病棟(50床)
- 難病医療協力病院 他

④職員数：315人（常勤換算数）

医師：35人、看護師：154人、医療技術者： 58人

その他：68人

(2) 重要施策

①新型コロナウイルス感染症対策

- ・50床のコロナ専用病床を確保し、県西地域の陽性患者を引き続き受け入れるとともに市民や基礎疾患のある患者等、延べ7,090人に対してワクチン接種を実施した。また、地域における感染対策の中核施設として、地域の医療機関に対し、計4回の研修を実施した。

②入院患者増対策

- ・新型コロナウイルスに係る入院病床確保の影響により、新入院患者数が減少しているため、総合的な診療が可能な非常勤救急医を採用し、救急受け入れの強化を図った。また、紹介による入院患者数増に向けた対策としては、クリニックを訪問し、連携医療機関として登録した。

③働き方改革に伴う業務負担軽減対策

- ・2024年4月からの医師の時間外労働時間制限（月80時間・年間960時間以内）に向け、医師事務作業補助者の増員や特定看護師の資格取得、非常勤救急医の雇用拡大を実施した。

(2) 重要施策

④DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

- 院内のネットワーク回線を全面更新してWifiエリアを拡大し、職員の業務効率化を図るとともに、近年大幅に増加しているWeb会議の需要に対応するため、Web会議専用にPC 5台、マイク一体型スピーカーを整備した。
- さらに、年末調整の電子申請化やサーバーの仮想化技術を導入し、部門システムの更新を行った。

⑤水害対策の推進

- 災害拠点病院として市内を流れる河川の氾濫に備え、病院出入り口の止水板、配電盤や酸素設備等、重要設備の防水など水害対策を行った。

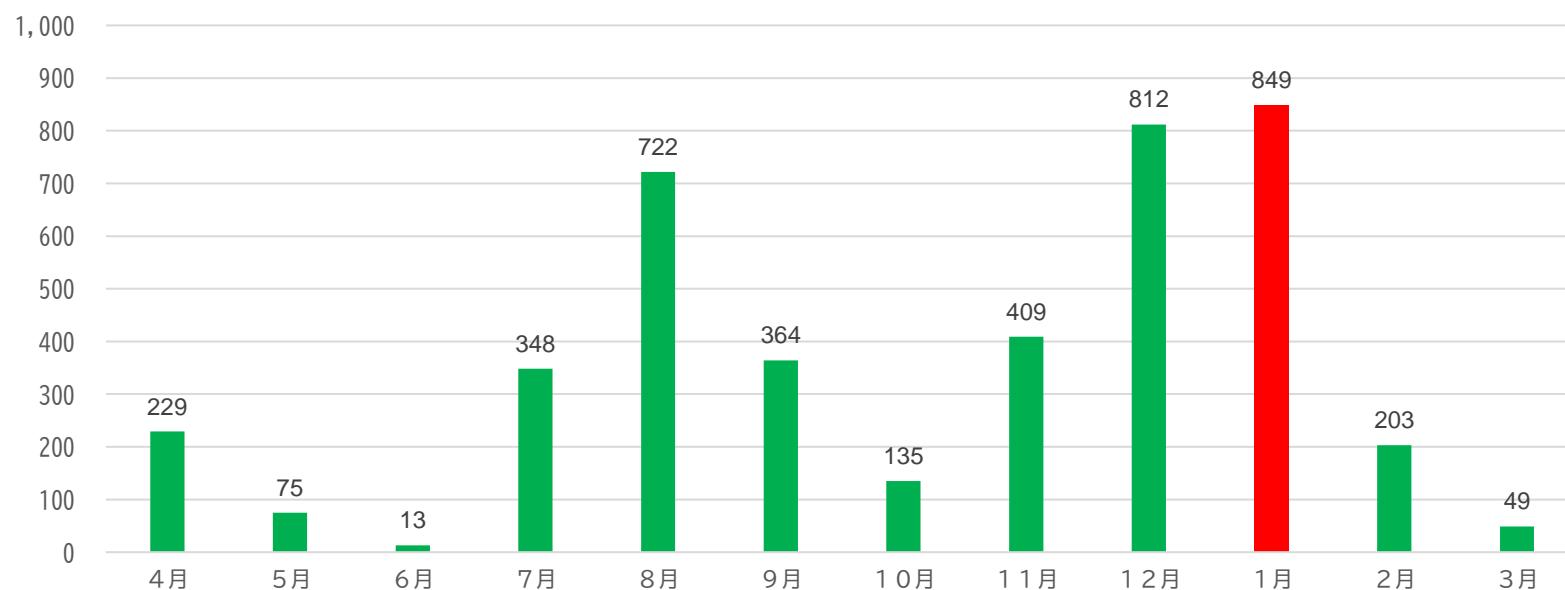
(3) 新型コロナウイルス感染症対応状況

入院患者受入

新型コロナウイルス感染症患者対応のため、県西地域の中核となる重点医療機関（特定機能病院等）として50床のコロナ専用病床を確保し、地域から多くの陽性患者を受け入れた。

[令和4年度 入院状況（延べ人数）]

(単位：人)



(4) 重要指標

①一日平均患者数

外来患者

(単位：人)

R4年度実績	397
R4年度計画	440
R3年度実績	410

入院患者

(単位：人)

R4年度実績	124
R4年度計画	154
R3年度実績	118

②1人1日当たり患者収益

外来患者

(単位：円)

R4年度実績	13,576
R4年度計画	12,600
R3年度実績	12,645

入院患者

(単位：円)

R4年度実績	53,047
R4年度計画	49,700
R3年度実績	51,573

2. 令和4年度歳入歳出決算の概要

・収益的収入

(単位：千円)

	4年度決算	3年度決算	備考（主な内容等）
入院診療収益	2,398,945	2,228,345	新型コロナ対応 [50床を確保、延4,208人が入院]
室料差額収益	92,098	95,767	個室料収入
外来診療収益	1,432,256	1,370,340	新型コロナ対応
保健予防活動収益	162,740	210,465	新型コロナワクチン接種 人間ドック収入等
その他の医業収益	41,196	37,096	診断書料収入等
医業外収益等	1,004,206	1,771,217	補助金収入等 [病床確保料収入約8億7千万円]
合　計	5,131,441	5,713,230	

2. 令和4年度歳入歳出決算の概要

・収益的支出

(単位：千円)

	4年度決算	3年度決算	備考（主な内容等）
材料費	899,582	772,083	医薬品、診療材料、給食材料費等
給与費	2,604,171	2,573,895	医師、看護師等人事費
委託費	359,292	345,599	清掃、保守、医事業務等
設備関係費	491,366	433,553	器機賃借料、修繕費等 [減価償却費約 3億円]
研究研修費	6,153	2,235	図書費、旅費交通費等
経費	199,441	197,060	水道光熱費、福利厚生費等
医業外費用等	91,007	108,095	看護師等委託養成費、診療費減免等
合　計	4,651,012	4,432,520	

3. 令和4年度歳入歳出決算の総括

・ 収入支出差引額

(単位：千円)

	4年度決算	3年度決算	備考（主な内容等）
収益的収入	5,131,441	5,713,230	病床確保料約8億7千円
収益的支出	4,651,012	4,432,520	材料費・経費光熱費等の増加
収入支出差引額	480,429	1,280,710	

(1) 収入では、入院診療収益ならびに外来診療収益が増加し、医業収益は増加したが、新型コロナウイルス感染症病床確保事業補助金等が減少したことにより収入全体は減収となった。51億3,144万円（前年度比 ▲10.18%）

- (2) 支出では、新型コロナウイルス感染症関連の医薬品・検査試薬等の影響による材料費の増加や、光熱費の高騰により、支出全体で増加となった。46億5,101万円（前年度比 4.93%）
- (3) 以上、支出を上回る収入の増加により、収支差引額は、4億8,043万円の黒字決算となった。

4.令和4年度補助金一覧

(1) 運営費補助金

補助元	新型コロナ以外	新型コロナ関連	備考
国庫	0円	619,257円	コロナ感染症による小学校休業等対応助成金
都道府県	16,493,953円	888,242,610円	病床確保料@8億7千万円
市町村	6,817,000円	1,748,092円	コロナワクチン接種体制整備事業補助金等
その他	10,007,440円	0円	病院群輪番制病院運営補助金等
補助金合計	33,318,393円	890,609,959円	

(2) 施設設備補助金

補助元	新型コロナ以外	新型コロナ関連	備考
国庫	0円	0円	
都道府県	9,900,000円	0円	地域医療勤務環境改善体制整備
その他	0円	5,728,581円	PCR検査機器等
補助金合計	9,900,000円	5,728,581円	

令和4年度事業報告 及び社会福祉施設特別会計 歳入歳出決算



支部乳児院

1. 令和4年度事業報告

(1) 乳児院の概要

①児童福祉法に基づき設立・認可

- ・家庭の様々な事情のため養育困難な乳幼児を、県内の児童相談所より措置、一時保護として預かり、昼夜にわたり必要な期間養育を行う。

②入所児定員 38人

③職員数 45人

医 師：1人 嘴託医：1人

看護師・保育士：33人

栄養士：1人 その他：9人

(2) 事業報告概要

① 事業

- ・ 小規模グループケア

入所児を対象にケア形態を小規模にし、より家庭的な環境下での養育を実施した。

- ・ 日曜の家事業

入所児が一般家庭において、一時的な家庭生活を体験する「日曜の家事業」を実施した。 → 延べ60名が体験

- ・ 病虚弱児の受入れ

児童相談所や近隣の医療機関と連携し、病虚弱児の受入を行った。 → 2名を受入

- ・ 里親への委託推進

里親支援専門相談員や関係機関と連携し、里親への委託を推進した。 → 3名を委託

- ・ 子育て短期支援事業（ショートステイ）

市町村からの委託により、家庭での育児が一時的に困難な乳幼児を受入れた。

→ 7名を受入

② その他

- ・ デジタル化の推進

ICTの利活用により業務効率化を図った。

2. 令和4年度歳入歳出決算の概要

・ 収 入

(単位：千円)

	4年度決算	3年度決算	備考（主な内容等）
措置費収入	297,353	288,159	事務費、事業費収入
補助金事業収入	528	0	新型コロナ環境改善事業補助金 物価高騰対策支援金
受託事業収入	396	150	子育て短期シートステイ
経常経費寄附金収入	370	23	寄附金
他会計繰入金収入	5,190	6,256	使途指定寄附金
その他の収入	78	67	受入研修費、雑収入
前年度繰越金	84,591	82,776	前年度繰越金
合 計	388,506	377,431	

2. 令和4年度歳入歳出決算の概要

・支 出

(単位：千円)

	4年度決算	3年度決算	備考（主な内容等）
人件費支出	229,680	213,469	看護師、保育士等人件費
事業費支出	25,175	21,447	給食費、被服費、水道光熱費等
事務費支出	18,924	16,428	修繕費、消耗品費、委託費等
固定資産取得支出	1,959	6,598	公用車等
積立資産支出	15,000	25,000	措置施設繰越資産支出
その他の支出	10,935	9,898	退職拠出金等
合 計	301,673	292,840	

3. 令和4年度歳入歳出決算の総括

・ 収入支出差引額

(単位：千円)

	4年度決算	3年度決算	備考（主な内容等）
収入	388,506	377,431	措置費収入の増加
支出	301,673	292,840	光熱水費等の増加
収入支出差引額	86,833	84,591	

- (1) 収入では、措置費保護単価の増額及び入所児数が増えたことにより、措置費収入増となった。
- (2) 支出では、修繕費およびエネルギー価格の高騰、物価高騰の影響により、支出増となった。
- (3) 以上、収入が支出を上回ったことにより、収支差引額は8,683万円の黒字決算となった。

令和 4 年度事業報告



茨城県
赤十字血液センター

1. 血液センターの特徴

令和5年3月31日現在

- ①施設 : 血液センター（茨城町）
供給出張所（つくば市）
献血ルーム（つくば市・水戸市）
- ②職員数 : 正規職員 115名 常勤嘱託等 60名
- ③車両 : 移動採血車 7台 献血運搬車 15台
その他車両 19台

2. 血液事業

- ・血液事業運営は、「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」等の関係法令を遵守した。
- ・採血事業者及び医薬品販売業者としての責務である血液製剤の安全性及び安定した供給体制を確保した。
- ・献血者の保護を行った。
- ・関東甲信越ブロック血液センターと同ブロック内の地域血液センターと連携し、円滑な広域需給管理体制を推進した。

3. 令和4年度事業報告の概要

(1) 事業内容

① 献血者の安定的確保

- ・新型コロナウイルス感染対策を徹底し、献血会場の安全性を確保するとともに、コロナ感染症の影響により中止となつたままの会場に対して受入再開の要請を行つた。
- ・LINE等SNSを活用した献血広報を実施したほか、茨城県市長会、町村長会以下3団体を訪問し、献血バスの受入れと献血への動員を依頼し、協力月間を設定してもらつた。
- ・献血受入計画を達成するため、県・市町村及び献血推進団体等と連携した。

② 血液製剤の安定供給の確保

- ・医療機関からの需要に応じて、血小板成分献血及び400mL献血を推進した。
- ・医療機関の需要に的確かつ迅速に対応できる365日24時間の供給体制を実施した。
- ・非常時の通信基盤強化と受注業務の過誤防止のため、Webによる受発注を推進した。

③献血推進キャンペーン等の実施

	実施時期	名称
1	4/1～4/8	トミカキャンペーン（予約献血者にトミカ進呈）
2	6/11～6/14	世界献血者デー（期間中献血協力者に記念品進呈）
3	6/1～3/1	学域献血キャンペーン
4	6/1～6/30、11/1～11/30	ミドルキャンペーン（50代以上の献血者対象）
5	7/1～8/31	IBARAKI TEENS献血キャンペーン（高校献血未実施校）
6	11/1～11/30,1/3～4/30	「茨ひより」コラボキャンペーン
7	7/30～9/16、12/1～1/15	「ガールズ&パンツァー」コラボキャンペーン
8	12/17～25	クリスマス献血キャンペーン
9	2/11～14	バレンタイン献血キャンペーン

(2) 採血実績

(単位：本)

採血種別	R 3 年度実績	R 4 年度計画	R 4 年度実績	対前年度比	対計画比
200mL 献血	3,081	2,305	3,701	120.1%	160.1%
400mL 献血	70,630	70,972	71,062	100.6%	100.1%
血漿成分献血	25,074	23,735	23,447	93.5%	98.8%
血小板成分献血	6,818	6,544	6,086	89.3%	93.0%
合 計	105,603	103,556	104,296	98.8%	100.7%

(3) 供給実績

血液製剤供給本数

(単位：200mL換算本数)

製剤別	R 3 年度実績	R 4 年度計画	R 4 年度実績	対前年度比	対計画比
全血製剤	0	0	0	—	—
赤血球製剤	132,880	130,950	132,715	99.9%	101.3%
血漿製剤	33,340	34,170	31,623	94.9%	92.5%
血小板製剤	166,005	163,850	148,205	89.3%	90.5%
合 計	332,225	328,970	312,543	94.1%	95.0%